

# 表1 分析対象中毒

— 日本中毒学会分析のあり方検討委員会提言 —

物質名	定量分析の必要性
メタノール	○
バルビタール系	○
ベンゾジアゼピン系	
プロムフレリル尿素	
三、四環系抗うつ薬	
アセトアミノフェン	○
サリチル酸	○
デオファイリン	○
有機リン剤 (MEP)	
カーバメート剤 (メソミル)	
グルホシネート	○
パラコート	○
ヒ素	○
青酸化合物	
メタンフエタミン	

図2. 1999年4月～2002年2月までに分析した薬毒物件数\* (341人中)

検出薬毒物名	件数	情報なし(188人)	情報あり(153人)
○ベンゾジアゼピン化合物	190	119	71
○三環系抗うつ薬	134	89	45
○アセトアミノフェン	39	15	24
○有機リン農薬	27	19	8
○グルホシネート	14	7	7
○総臭素	12	2	10
○サリチル酸	11	5	6
○パラコート	4	1	3
○カーバメート農薬	2	1	1
○メタンフエタミン	2	1	1
○バルビツール酸	2	2	0
○メタノール	2	2	0
○遊離シアン	1	1	0
○総ヒ素	1	0	1
○テオフィリン	1	1	0
その他(エタノール)	415 (256)	268 (162)	147 (94)
未検出	26 (26人)	17 (17人)	9 (9人)
合計	883	550	333

\* 同時に分析された化合物で臨床症状との関係が明らかでない物質も全て含めた。  
○ 日本中毒学会分析のありかた検討委員会提唱分析品目

図3. 分析が治療上有用であった薬毒物品目と数(341人中)

検出薬毒物名	分析件数	有用性が見られた	従来と変わらなかった
○ベンゾジアゼピン化合物	190	119	71
○三環系抗うつ薬	134	89	45
○アセトアミノフェン	39	39	0
○有機リン農薬	27	19	8
○グルホシネート	14	14	0
○総臭素	12	12	0
○サリチル酸	11	11	0
○パラコト	4	4	0
○カーバメート農薬	2	1	1
○メタンフェタミン	2	2	0
○バルビツール酸	2	2	0
○メタノール	2	2	0
○遊離シアン	1	1	0
○総ヒ素	1	1	0
○テオフィリン	1	1	0
その他(エタノール)	415(256)	268(162)	147(94)
未検出	26	0	26
合計	883	585	298

○ 日本中毒学会分析のありかた検討委員会提唱分析品目

## 中毒情報センターのホームページのあり方

分担研究者	黒木由美子	(財) 日本中毒情報センター	施設長
協力研究者	飯田 薫	(財) 日本中毒情報センター	職員
協力研究者	荒木浩之	(財) 日本中毒情報センター	職員
協力研究者	遠藤容子	(財) 日本中毒情報センター	施設次長
協力研究者	真殿かおり	(財) 日本中毒情報センター	係長
協力研究者	橋 幸宏	(財) 日本中毒情報センター	職員
協力研究者	吉岡敏治	大阪府立病院 救急診療科	部長

日本中毒情報センターでは平成9年2月からホームページを公開し、現在ミラーサイトを含め13万件のアクセス数となっている。しかし、公開しているホームページは一般市民向けの情報が中心であり、医療従事者には中毒起因物質の毒性、症状、治療などに関する詳細な中毒情報が不足している。

そこで、今回、医療従事者向けのホームページを新たに構築し、公開した。

8月1日から日本中毒情報センター賛助会員（医療従事者）1,764会員、中毒起因物質別専門家88名、厚生労働省へ限定公開し、6か月後、賛助会員1,764会員に対し郵送による利用アンケート調査を行った。回答が得られた581件（回収率32.9%）について結果を分析した。なお、ホームページへのアクセス数は3,141件（8月1日～2月28日）であった。

公開時の掲載項目は掲示板・保健婦・薬剤師・看護婦向け中毒情報データベース、救急隊向け中毒情報データベース、Japan Medicine（新聞）連載記事、中毒研究（雑誌）連載記事、解毒剤情報、分析関連情報（リンク）の7項目であった。その後、文献検索情報（速報）、化学兵器等中毒対策データベース、分析施設情報の追加を行った。

利用アンケート調査の結果、回答があった581件中、8月～1月までに「利用したことがある」のは160件で、利用回数は1～5回80.6%、6～10回11.2%、11～20回3.8%、21回以上3.8%であった。「利用していない」421件の主な理由はインターネットを利用していない224件（うち「今後の利用予定あり」136件）、必要がなかった（緊急電話相談で十分等）69件などであった。掲載内容の有用性について382件から何らかの回答を得た。評価は5段階（非常に有用である、有用である、普通、あまり必要ではない、不要）とした。全体に「有用である」という評価（35～45.3%）が多く、特に、解毒剤情報と保健婦・薬剤師・看護婦向け中毒情報データベースは「非常に有用である」と「有用である」を合わせると、70%以上の高い評価が得られた。また、今後の開発項目の要望は医師向けデータベース、基本治療情報などが多く、当然のことながら、より臨床に役立つ情報が望まれていることが明らかになった。このほか認証画面の改善、ホームページ内の検索機能追加などシステム面での要望があった。

今後、要望が多かった項目の開発、認証画面の改善などを検討したい。さらに、国内外のホームページと比較検討を加え、掲載項目と内容の開発、改良を進めたい。

## A. 研究目的

日本中毒情報センターのホームページは、平成8年度厚生科学研究費補助金健康政策調査事業の「化学中毒の情報ネットワークシステム構築に関する研究」(主任研究員：吉岡敏治)により構築され、平成9年2月から一般公開された<sup>1)</sup>。平成2年のアクセス数は約7,000件であった。その後、平成10年に発生した和歌山毒物混入カレー事件やアジ化ナトリウム混入事件時には、ホームページのニュース欄にシアン、砒素、アジ化ナトリウムの中毒情報を掲載した。その直後からアクセス数が増大し<sup>2)</sup>、7年経った現在はミラーサイトを含め13万件のアクセス数となっている。

しかしながら、一般公開しているホームページの掲載内容は、事業案内、受信統計、家庭用品や自然毒を中心とする中毒情報、ニュース欄など一般市民向けの情報であり、医療従事者にとっては、中毒起因物質の毒性、症状、治療、分析、文献などにかかわる中毒情報が不足している。

今回、本研究では医療従事者向けのホームページを新たに構築し、まず、日本中毒情報センター賛助会員(医療従事者のみ)などへ限定公開した。さらに、その掲載内容の有用性について利用アンケート調査を行った。

## B. 研究方法

以下の手順と方法で、医療従事者向けホームページの構築、公開、利用アンケート調査を行った。

### 1. ホームページの構築(平成13年4~7月)

一般公開しているホームページから医療従事者向けホームページ(「賛助会員向けホームページ」)へのアクセス方法の検討、掲載項目と内容の検討、試行運用と改良を行った。

### 2. 医療従事者向け公開(平成13年8月~)

8月1日から日本中毒情報センター賛助会員(医療従事者・医療機関・医療行政)1,764会員、起因物質別中毒専門家(財団から依頼し了承が得られた中毒専門家)88名、厚生労働省へ対し公開を開始した。

### 3. 利用アンケート調査(平成14年1~2月)

日本中毒情報センター賛助会員1,764会員に対し、郵送による利用アンケート調査を行った。回答が得られた581件(回収率32.9%)について、利用状況などを分析した。

## C. 研究結果

### 1. ホームページの構築

#### 1) アクセス方法

一般市民向けホームページ上(Microsoft Lotus Notes)に「賛助会員向けホームページ」の認証画面へのリンクを作成した。認証には、個々の会員にあらかじめ連絡した会員区分、会員番号、および12桁の認証番号を用いた。入力者が賛助会員会費を納入済み、または中毒登録専門家であることを会員名簿データベース(Microsoft Access)で確認し、承認後、医療従事者向けホームページが開くよう設定した(図1)。

#### 2) 掲載項目と内容の検討

掲載項目は、財団からの連絡を掲載する掲示板、治療に役立つことを重視し選定したデータベース類、基本治療・解毒剤・分析・症例・文献などに関する情報、すぐに掲載可能で継続性がある新聞・雑誌の連載記事などを選定した。表1に掲載項目と内容を示した。掲載情報は順次開発を行い、完成次第掲載し、更新・改訂を行うことにした。また、毒性情報を主体とするファイル内容の重要性から、データの表示は外部からの書き換えが困難なPDFファイルとして作成することにした。

#### 3) 試行運用

7月に認証画面の作動確認、項目と内容の

リンクの確認などを行った。さらに、利用者がホームページ全体を把握できるよう、項目タイトルだけの画面（左）と本画面（右）の2フレーム構成とするなど改良を加えた。

## 2. 医療従事者向け公開

### 1) 公開連絡

8月1日から医療従事者向けホームページを限定公開する旨を日本中毒情報センター賛助会員（医療従事者・医療機関・医療行政）1,764会員、起因物質別中毒専門家88名、厚生労働省へ対し、郵送文書（7月末着）にて連絡を行った（資料1）。

### 2) 掲載内容

公開時の項目は掲示板、保健婦・薬剤師・看護婦向け中毒情報データベース、救急隊向け中毒情報データベース、Japan Medicine（新聞）連載記事、中毒研究（雑誌）連載記事、解毒剤情報、分析関連情報（リンク）の7項目であった。その後、9月16日に文献速報の追加、10月1日に9月11日の米国テロを受け緊急に化学兵器等中毒対策データベースの公開、10月25日に民間分析受託機関の追加を行った（図2）。本年度未開発の項目は医師向け中毒情報データベース、基本治療情報、症例情報データベース、文献検索データベース、簡易分析法情報などの分析関連情報である。

### 3) アクセス数

平成13年8月1日～平成14年2月28日までの総アクセス数は、3,141件であった。

## 3. 利用アンケート調査結果

平成13年8月～平成14年1月の6か月間の利用状況についてアンケート調査（資料2）を行い、回答があった581件について分析した。

### 1) 利用状況

結果を表2に示した。「利用したことがある」のは160件で、その中では1～5回80.6%、6～10回11.2%、11～20回3.8%、21回

以上3.8%、不明0.6%であった。「利用していない」は421件で、その理由は、インターネットを利用していない224件（うち「今後の利用予定あり」136件）、アクセスがうまくいかなかった（機種・設定など不具合の可能性）10件、必要がなかった（緊急電話相談で十分など）69件、存在を知らなかった（連絡不十分など）41件、忘れていた16件などであった。

### 2) 掲載内容の評価

掲載内容の有用性について、5段階評価（非常に有用である、有用である、普通、あまり必要ではない、不要）を行った。これまで「利用していない」場合も、今回アクセスできた方には評価をお願いし、382件から何らかの回答を得た。なお、項目毎に回答があった件数をそれぞれの項目の母数とし評価率を得た。

図3に結果を示した。全体に「有用である」という評価（35～45.3%）が得られた。特に、解毒剤情報と保健婦・薬剤師・看護婦向け中毒情報データベースは、「非常に有用である」と「有用である」を合わせると、それぞれ74.1%、73.3%であり高い評価が得られた。「あまり必要ではない」と「不要」を合わせた評価率が比較的高かったのは、分析施設情報、文献情報（速報）でそれぞれ11.3%、10.1%であった。

### 3) 掲載項目の開発要望、改良点

本年度未開発の項目を含め、今後開発して欲しい掲載項目の要望はのべ996件あった。要望が高かった項目は、医師向けデータベース239件、基本治療情報235件、症例情報182件、診断補助データベース145件などであった。簡易分析法情報、化学災害情報の開発希望はそれぞれ50件、67件と少なかったが開発要望があった（表3）。このほか動物の中毒情報などの開発要望もあった。

項目内容の改良点として、国内市販解毒

剤の情報内容充実や、中毒関連諸機関へのリンクの充実を求める意見があった。

#### 4) その他の要望、コメント

その他の要望やコメントがあったのは77件であった。要望としては、認証画面の改善（認証番号の保存機能付加など）11件、ホームページ内の検索機能追加9件などがあった。このほかPDF画面の文字の見づらさとスピードが遅いことに関する苦情が11件あった。

### D. 考察

日本中毒情報センターがこれまで公開してきたホームページは、一般市民向けに財団紹介や受信統計、中毒事故発生予防のための情報、社会的な中毒事件・事故の際に情報を提供するニュース欄などが中心であり、医療従事者に必要な中毒治療のための毒性、症状、治療に関する詳細情報は、まだ公開には至っていなかった。

医療従事者向けの情報は、中毒起因物質にかかわる詳細な毒性情報であり、中毒事故発生予防を目的とした一般市民向けの情報とは、質・量ともおのずと異なる専門性の高い情報であること、また、日本中毒情報センターでは、中毒患者の治療を行うために必要な中毒情報の提供は、すべて有料の電話相談で行っていること、が医療従事者向けホームページ構築にあたって考慮すべき点であった。

本研究では、一般向けホームページとは別サイトに医療従事者向けホームページを構築した。また、有料電話相談事業との整合性をはかるため、まず、日本中毒情報センター賛助会員および本財団に登録している起因物質別中毒専門家へ限定公開を行った。これらの中毒情報の公開により、利用者は平素から中毒情報を検索し、情報を取り出せる利点、すなわち図書館のような活用法が可能となる。緊急時における電話相

談と併せて、日本中毒情報センターの活用幅が広がったものと考えられた。

利用アンケート調査の結果では、581件中これまで利用したことがあったのは160件のみであり、その約80%が利用回数1～5回であった。インターネットを利用していない施設も224件と未だ多く、電話相談のみで充分なので必要なかったなどの回答もあった。今後、インターネット利用者を増加させるために、公開枠を広げるなどの工夫が必要である。

一方、掲載項目内容の評価結果（382件から回答）は、全般に有用であるという回答が得られており、特に解毒剤情報、保健婦・薬剤師・看護婦向け中毒情報データベースの評価が高いことが明らかになった。また、掲載項目の開発要望としては医師向けデータベース、基本治療情報の要望が多く、さらに、国内解毒剤情報の充実や中毒関連諸機関へのリンクの充実などの要望があった。これらの結果から、当然のことではあるが、利用者はより臨床に役立つ中毒情報を求めていることが明らかになった。次年度、早急に医師向けデータベースなどの開発に取り組みたいと考える。また、分析施設情報、文献検索情報（速報）については、有用性の評価が他の項目と比較すると低く、追加や改良を検討したい。システム面では、認証画面の改善（認証番号保存機能の付加）やホームページ内検索機能の追加の要望があったので、これらについても検討を行いたい。

海外の中毒センターは、電話やインターネットによる中毒相談の情報提供料は無料であり、ホームページでの情報公開に料金的な問題はないと考えられる。フランスの中毒情報TOX-INは、以前からフランス語で公開されていたが、昨年英語版が公開され、世界的に利用できるようになった。また、中毒センター独自のニュースレターを公開

しているマレーシア(ペナン)、イギリス(ロンドン)などのセンターもある。しかし、このように医師向けデータベースやニュースレターを公開している中毒センターのホームページは少なく、通常はセンター紹介、一般市民への啓発記事、応急処置などの情報に止まっているのが現状である<sup>34)</sup>。一方、インターネット上で公開されているものとしては、イギリスの中毒センターが国内医療関係者のみに公開している UKTOX がある。これは海外の閲覧希望者は許可が必要で、しかも有料である。また、International Programme Chemical Safety(IPCS)のINTOXデータベースは、一部はIPCSホームページ内で公開されているが、全データについては有料で公開されている。

国内では、化学災害情報や化学物質情報を検索できるインターネット上の有料データベースとして、早稲田大学理工学部総合研究センター災害情報センターの「災害情報データベース」や、インターネットアトラスの「ケミカルDBオンラインサービス」などがある。今後さらに、国内外の中毒関連情報データベースの公開現状や料金体系などを調査し、参考にしていきたい。

今回、本研究で構築した医療従事者向けホームページは、公開対象を「インターネット会員(医療従事者、2000円/年)」とし、広く募集を開始した。次年度も、より中毒医療に貢献できるよう、引き続き掲載項目とその内容を検討し、開発、改良を行いたい。

#### E. 結論

医療従事者向けホームページの構築、およびその利用アンケート調査を行った。

ホームページには、3種の中毒情報データベース、解毒剤情報、新聞・雑誌掲載記事、文献検索情報(速報)、分析関連情報(リン

ク)を本年度掲載することができた。この中で解毒剤情報、保健婦・薬剤師・看護婦向け中毒情報データベースは、利用者の70%以上に非常に有用、または有用であるとの評価が得られた。次年度は、開発要望が多かった医師向けデータベース、基本治療情報などについて開発を行いたい。さらに、認証画面の改善や内部検索機能付加などシステム面での改良も検討したい。今後、国内外の中毒関連諸機関のホームページと比較検討を加え、掲載項目とその内容の開発、改良を進めたい。

#### 参考文献

- 1) 吉岡敏治: 化学中毒情報ネットワークシステム構築に関する研究. 平成9年度厚生科学研究補助金事業報告書 1998.
- 2) 黒木由美子, 遠藤容子, 田村満代 他: 集団中毒に対する日本中毒情報センターの対応現状と課題. 中毒研究 2000; 13: 321-327.
- 3) 白川洋一: インターネットによる中毒情報提供の課題. 平成11年度厚生科学研究補助金事業分担研究報告書 2000.
- 4) 安部嘉男, 吉岡敏治: 世界の中毒情報センターサイト. 総合臨床 1999; 48: 2632-2636.

#### F. 健康危機情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 研究発表

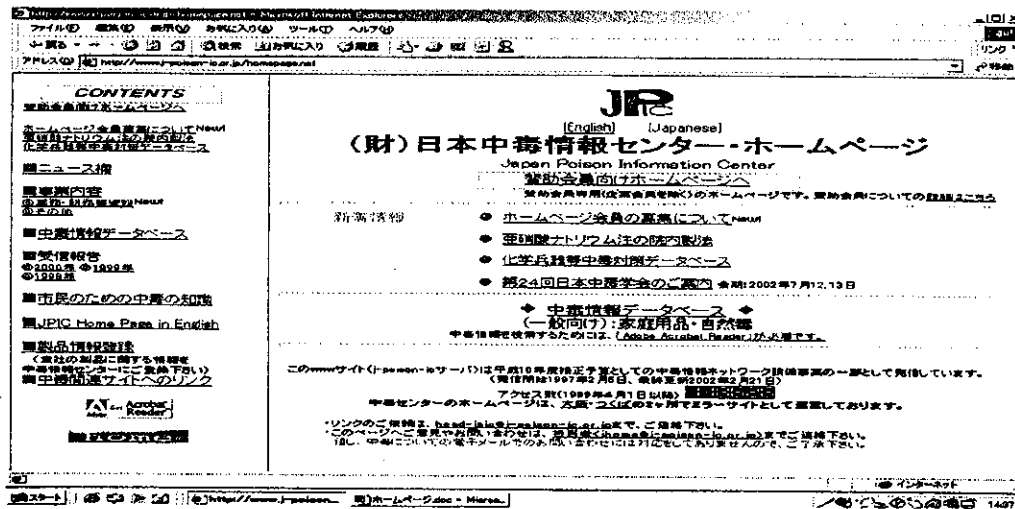
第24回日本中毒学会総会(7月)発表予定

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

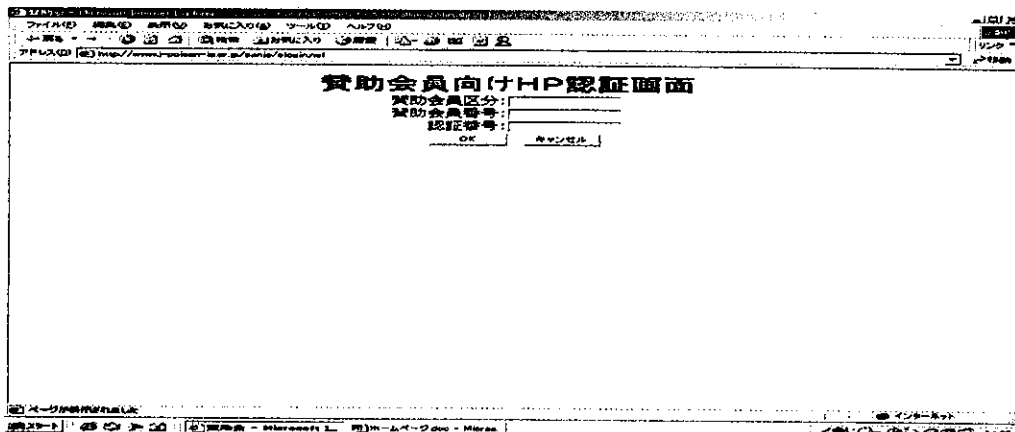
なし



一般向けホームページ画面



賛助会員向けホームページ認証画面



賛助会員向けホームページ画面

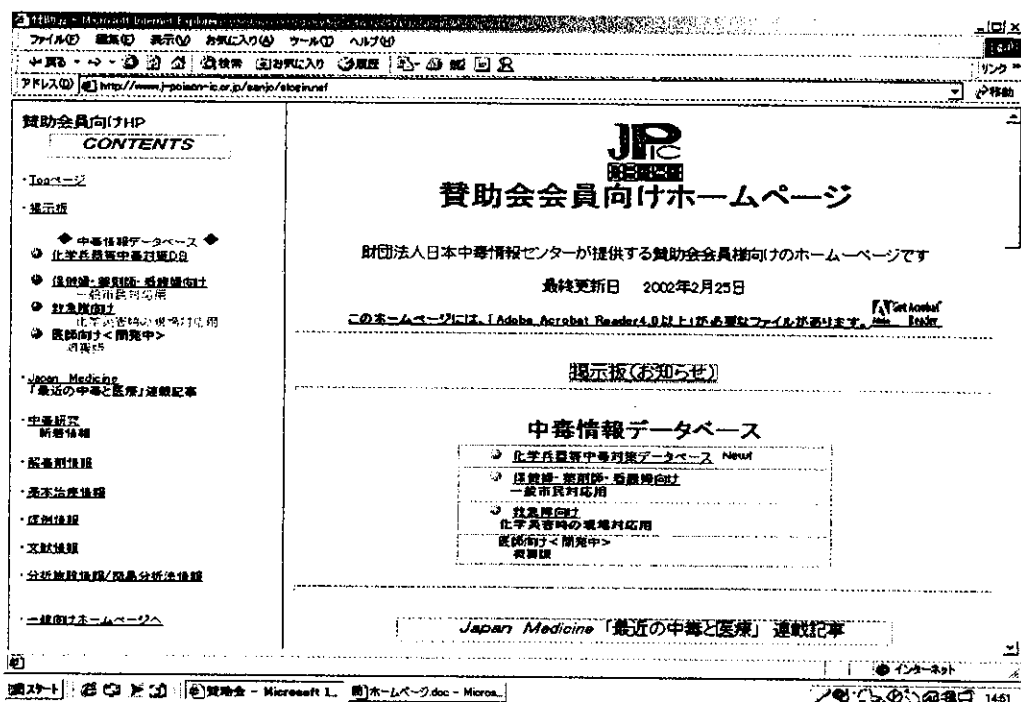


図1 賛助会員向け（医療従事者向け）ホームページへのアクセス画面

表 1 賛助会員向けホームページの掲載項目と内容

項目	内容
掲示板	各項目の新着情報や、(財)日本中毒情報センターからのお知らせに関する情報を掲載
化学兵器等中毒対策データベース	化学兵器の中毒情報と各種解毒剤などに関するデータを収載
保健婦・薬剤師・看護婦向けデータベース	家庭用品、医薬品、農薬、自然毒、工業用品による中毒時の情報提供のポイントなどのデータを収載
救急隊向けデータベース	化学災害時の現場対応とその知識に関するデータを収載
医師向けデータベース(現在開発中)	中毒起因物質の物性、毒性、症状、治療、分析などに関する詳細データを収載
Japan Medicine	医療関係者向け日刊紙「JapanMedicine」に連載中の記事を順次掲載
中毒研究	日本中毒学会準機関誌「中毒研究」に連載中の記事を順次掲載
解毒剤情報	各種解毒剤の適応、作用機序、商品名等に関する情報を収載
基本治療情報(現在開発中)	中毒の基本治療に関する情報を収載
症例情報(現在開発中)	中毒症例に関する情報を収載
文献検索情報<速報>	最近の急性中毒に関する邦文文献のタイトルを各分野(医薬品、農薬、家庭用品等)毎に掲載
文献検索データベース(現在開発中)	中毒関連の文献データを収載
分析施設情報	民間分析受託機関に関する情報を収載
分析関連情報(現在開発中)	分析法データベース、薬毒物の簡易分析法、薬毒物分析マニュアルなどの情報、またはリンクを収載

平成13年7月

賛助会員各位

財団法人 日本中毒情報センター  
理事長 杉本 侃

賛助会員向けホームページの公開について（ご案内）

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当財団の運営につきましては、平素からご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当財団では、平成7年2月から中毒情報ネットワーク設備事業の一環として（財）日本中毒情報センター・ホームページ（<http://www.j-poison-ic.or.jp>）を開設し、主に、一般市民向け中毒情報、中毒関連ニュース、相談電話の受信統計などを発信してまいりました。また、昨年度からミラーサイト（<http://www.t.j-poison-ic.or.jp>）も立ち上げ、発信を強化いたしております。おかげさまで総アクセス件数は20万件に達しております。

この度、医療関係者向けの中毒関連情報を掲載した「賛助会員向けホームページ」を新たに開設する運びとなりました。本ホームページのご利用は、賛助会員の皆様、ならびに中毒専門家、関連諸機関に限定させていただきますので、一般公開のホームページ（上記サイト）に設けました賛助会員認証画面で下記に示しました入力例のように、貴殿（貴院）の賛助会員区分と番号、12桁の認証番号を入力して頂きますようお願い申し上げます。

（入力例） 賛助会員番号 1-9999 の場合 [区分(1桁)-番号(4桁)になります]

賛助会員区分：1（半角数字）

賛助会員番号：9999（半角数字）

認証番号：\*\*\*\*\*（半角英数字）

公開は8月上旬を予定しております。まだ開発中の項目もございますが、順次発信してまいりますので、是非、ご活用くださいますようお願い申し上げます。なお、本年度は試行期間と位置づけ、年度末にご意見・ご要望等のアンケートを実施する予定ですので、よろしくご協力のほどお願いいたします。

最後になりましたが、貴殿（貴院）のますますのご活躍をお祈りいたします。

今後ともどうぞよろしくご支援のほどお願い申し上げます。

敬具

賛助会員向けホームページ

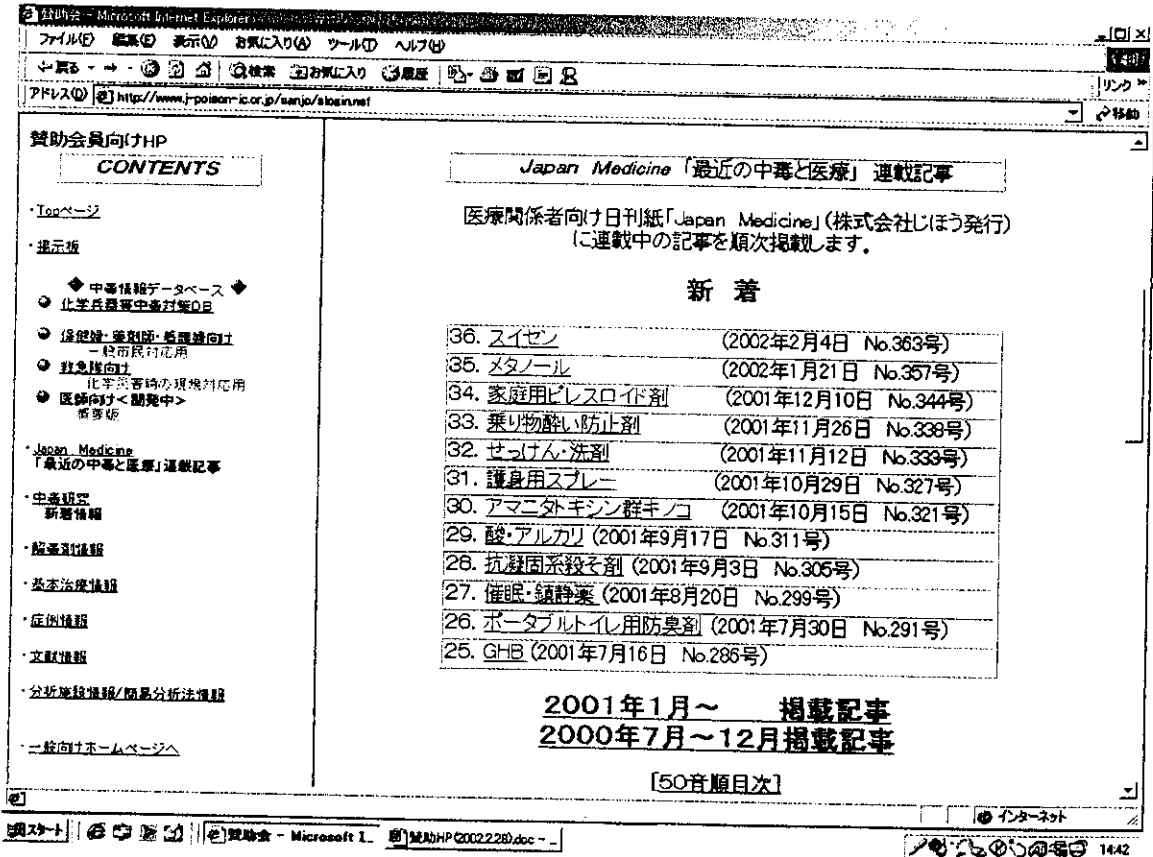
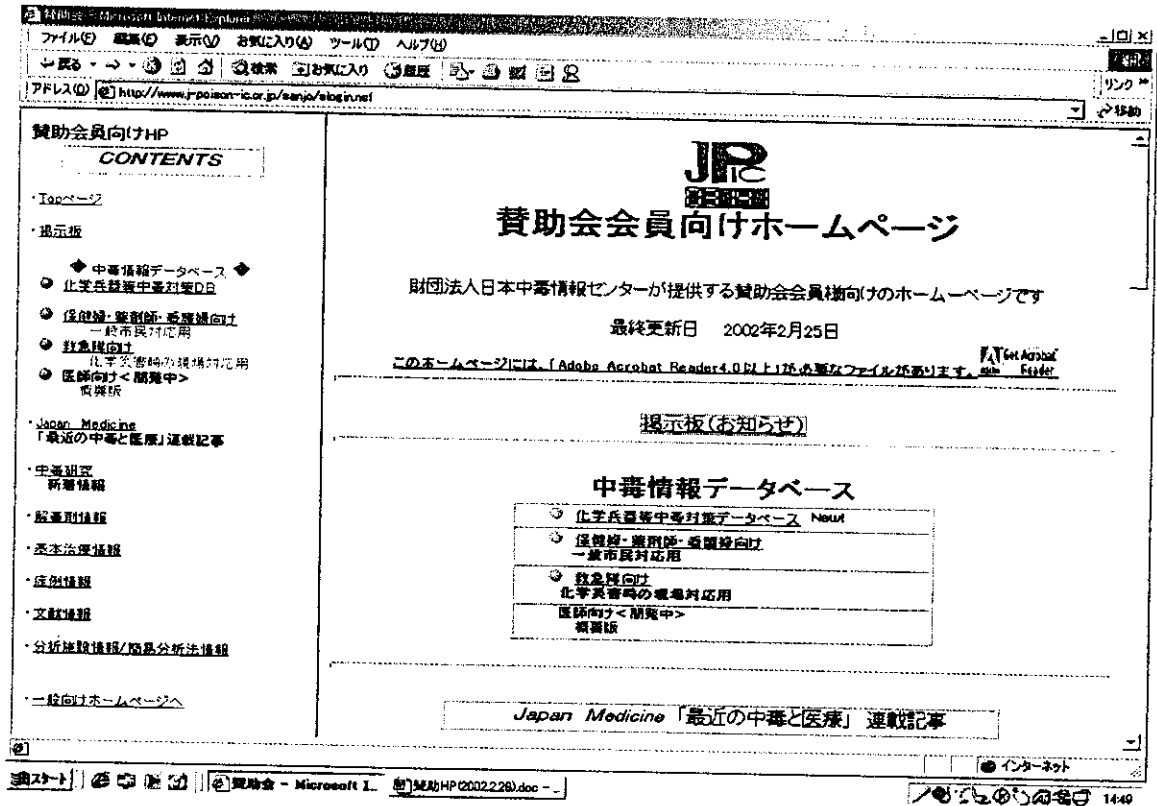


図2 賛助会員向け(医療従事者向け)ホームページ - 1

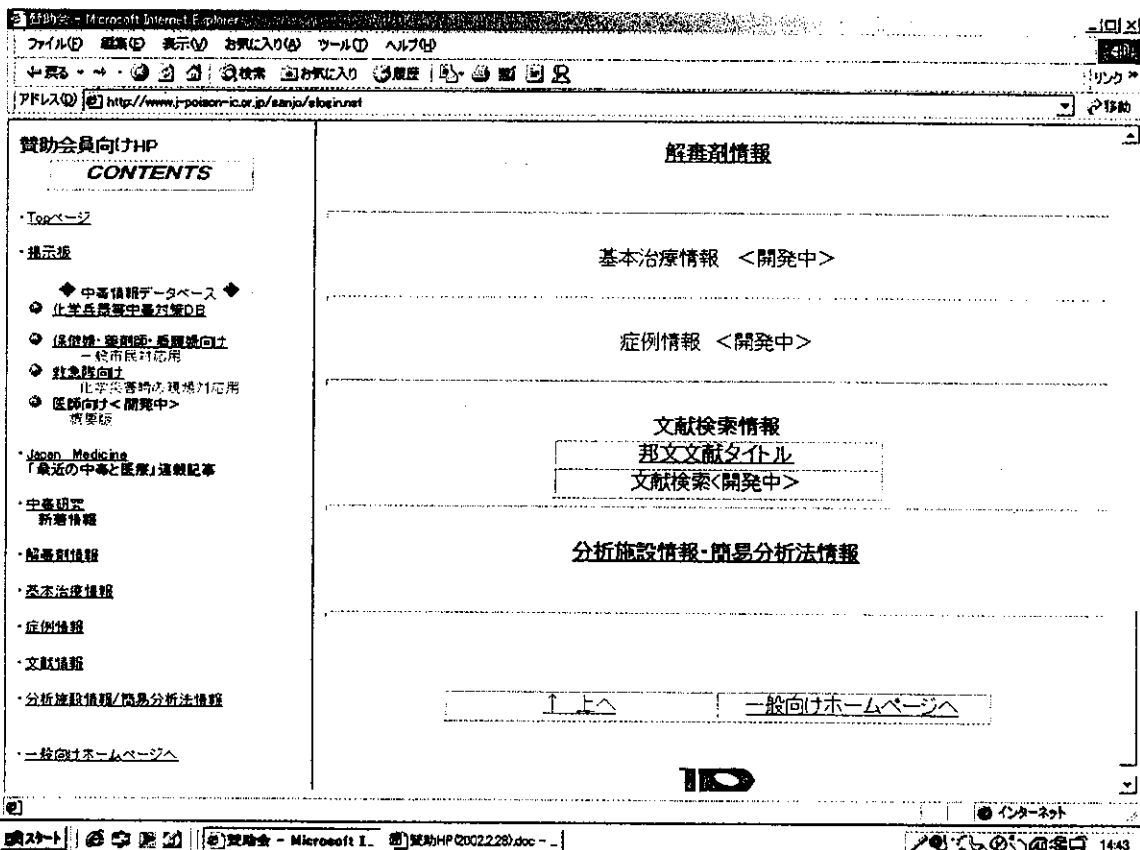
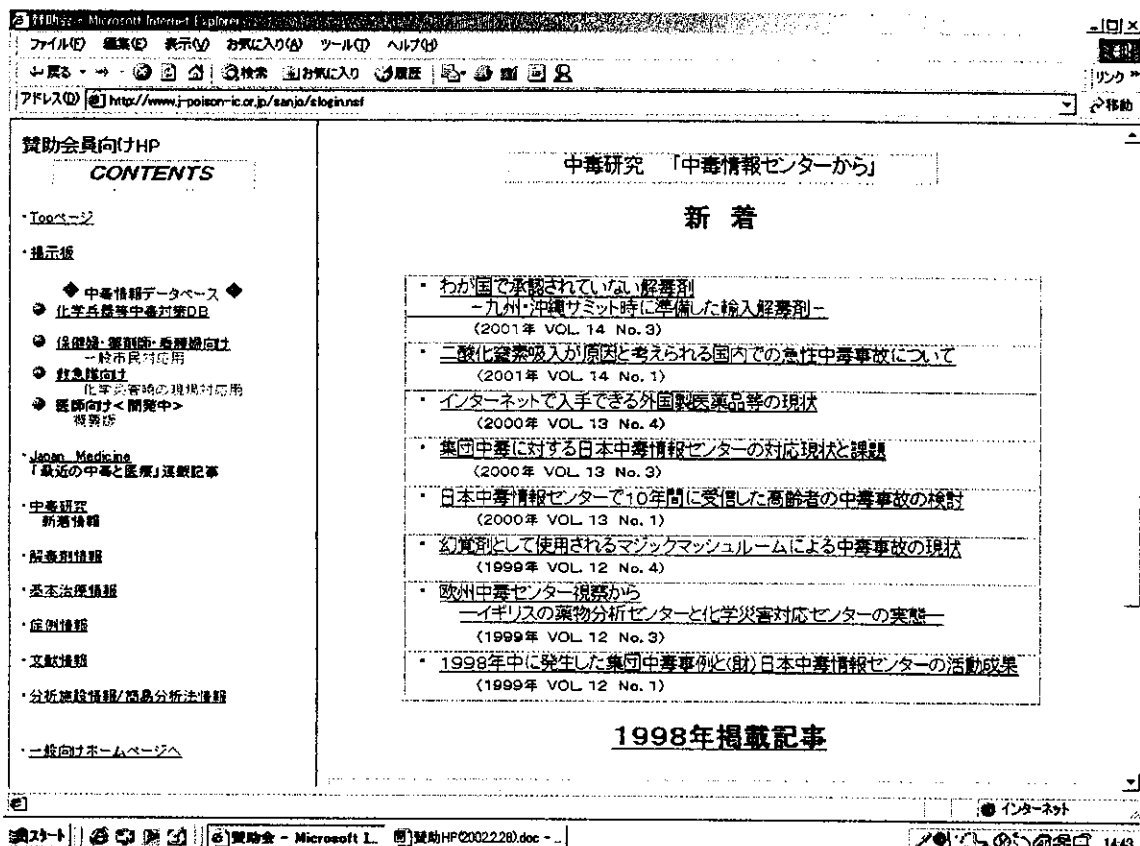


図2 賛助会員向け（医療従事者向け）ホームページ - 2

掲示板

賛助会員向けHP  
CONTENTS

←戻る →進む 上戻る 下進む 検索

発行日順

カテゴリ	タイトル
2002/02/28	文獻情報/大阪中毒110番 最近の急性中毒についての邦文文献タイトル紹介 Vol.8
2002/02/25	新着記事のお知らせ/本部事務局 Japan Medicine新着記事のお知らせ
2002/02/08	新着記事のお知らせ/本部事務局 Japan Medicine新着記事のお知らせ
2002/01/31	文獻情報/大阪中毒110番 最近の急性中毒についての邦文文献タイトル紹介 Vol.7
2002/01/25	新着記事のお知らせ/本部事務局 Japan Medicine新着記事のお知らせ
2001/12/20	文獻情報/大阪中毒110番 最近の急性中毒についての邦文文献タイトル紹介 Vol.6
2001/12/13	新着記事のお知らせ/本部事務局 Japan Medicine新着記事のお知らせ
2001/07/01	お知らせ/本部事務局 賛助会員向けホームページの公開について

←戻る →進む 上戻る 下進む 検索

中毒情報データベース (化学兵器等中毒対策データベース)

はじめに

化学兵器によるテロや毒劇物を用いた事件は予測できない状況で発生する。このデータベースは、除染や個人防護設備の基本と、鑑別診断や治療の指針を化学兵器の種類別に編集したものである。個々の物質についても、データベースの基本とした20種類の化学兵器に関する詳細なデータと各種解毒剤の詳細ファイルを取載した。

(財)日本中毒情報センター 常務理事  
大阪府立病院救急診療科  
吉岡 敏治

データベース使用条件

秘密保持義務  
(財)日本中毒情報センターの書面による同意なしに、データベース収録データの全部または一部を第三者に提供することはできません。  
(複製、改変、譲渡、移転を禁じます)

責任の制限  
(財)日本中毒情報センターはいかなる場合にも、特別な事情から生じた損害及び第三者から貴殿または貴施設に対してなされた損害賠償請求に基づき損害についていさぎ責任を負いません。  
(財)日本中毒情報センター  
2001年3月

図2 賛助会員向け (医療従事者向け) ホームページ - 3

中毒情報データベース（保健婦・薬剤師・看護婦向け）

(財)日本中毒情報センター／中毒情報データベース(一般市民対応用)  
 項目検索または全文検索を選択して下さい。(チェックのついた検索のみ実行されます。)  
 ◎項目検索:(各項目は、and検索)  
 物質名:  検索実行 条件クリア  
 大分類:  表示方法:  分類順  50音順  
 中分類:  ホームページへ戻る  
 小分類:   
 全文検索:

名前	大分類	中分類	小分類
アシヤドワ	薬毒類	抗がん剤	抗がん剤
青梅	毒	毒	毒
アクリノール	殺菌剤	殺菌剤	殺菌剤
味の素	調味料	調味料	調味料
アスピリン	医薬品	解熱剤	解熱剤
アセトアミノフェン	医薬品	解熱剤	解熱剤
アニリン系除草剤	農薬/園芸用品	除草剤	除草剤
アマニ外キン群(キノ)	殺菌剤	殺菌剤	殺菌剤
アルカミ水酸化ナトリウム水酸化カルウム	工業薬品	その他	その他
アンモニア	工業薬品	その他	その他
育毛剤(養毛剤)	化粧品	化粧品	化粧品
イチジク洗眼(グリセリン)	医薬品	洗眼薬	洗眼薬
一酸化炭素	工業薬品	ガス	ガス
イプロフェン	医薬品	鎮痛薬	鎮痛薬
イボテン酸群きのこ(テングタケ)	菌毒類	毒	毒

中毒情報データベース（救急隊向け）

化学災害時の現場対応とその知識

この検索システムは、平成12年度厚生科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業の「中毒情報の自動収集、自動提供システムの構築とそのパイロットスタディ(主任研究者:吉岡敏治)」における分担研究「集団化学災害時の提供情報の整備とその提供方法について(分担研究者:安部嘉男)」の研究成果として作成・整備された資料に基づいています。

検索したい化学物質名を入力し、検索ボタンを押して下さい  
 (フリガナ・国連番号での検索も可能です。フリガナでの検索は、全角カタカナをお願い致します。)

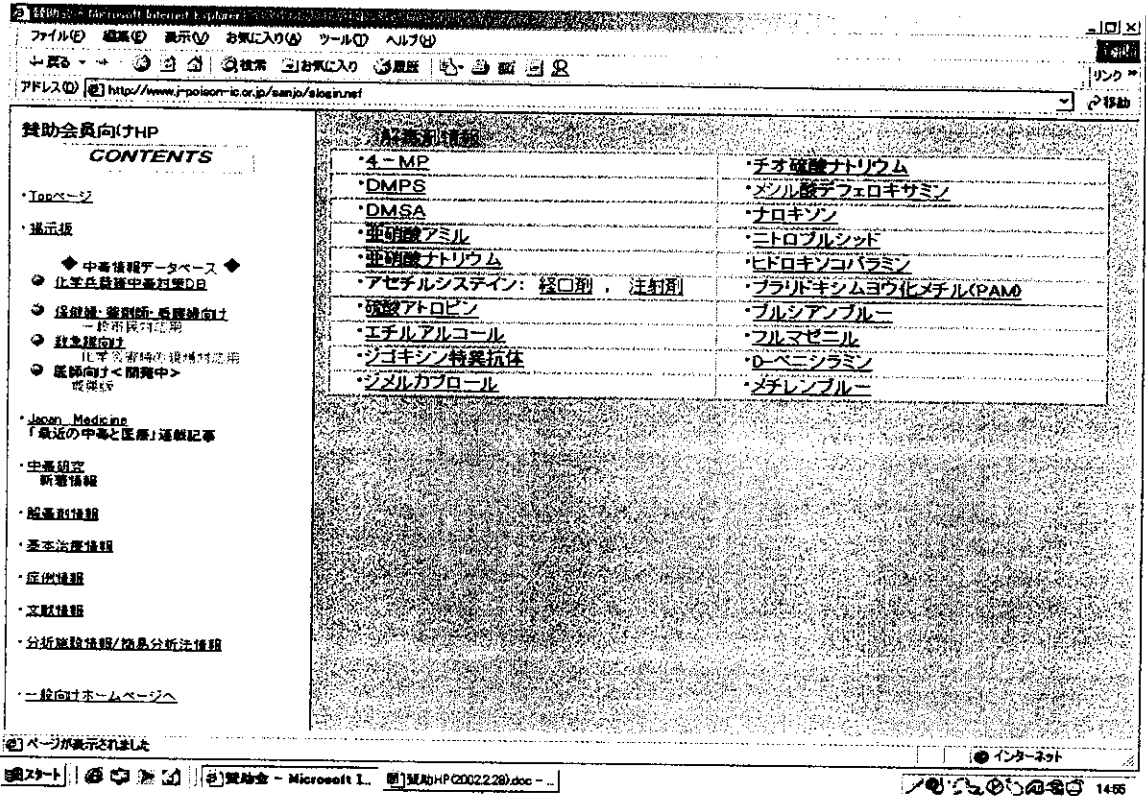
検索

全83物質収載(順次追加予定)

ここで検索可能な物質は「危険物輸送に関する国連勧告」で毒性高圧ガス、毒物、腐食性物質、薬水物質に分類されている物質

図2 賛助会員向け（医療従事者向け）ホームページ - 4

解毒剤情報



邦文文献タイトル紹介

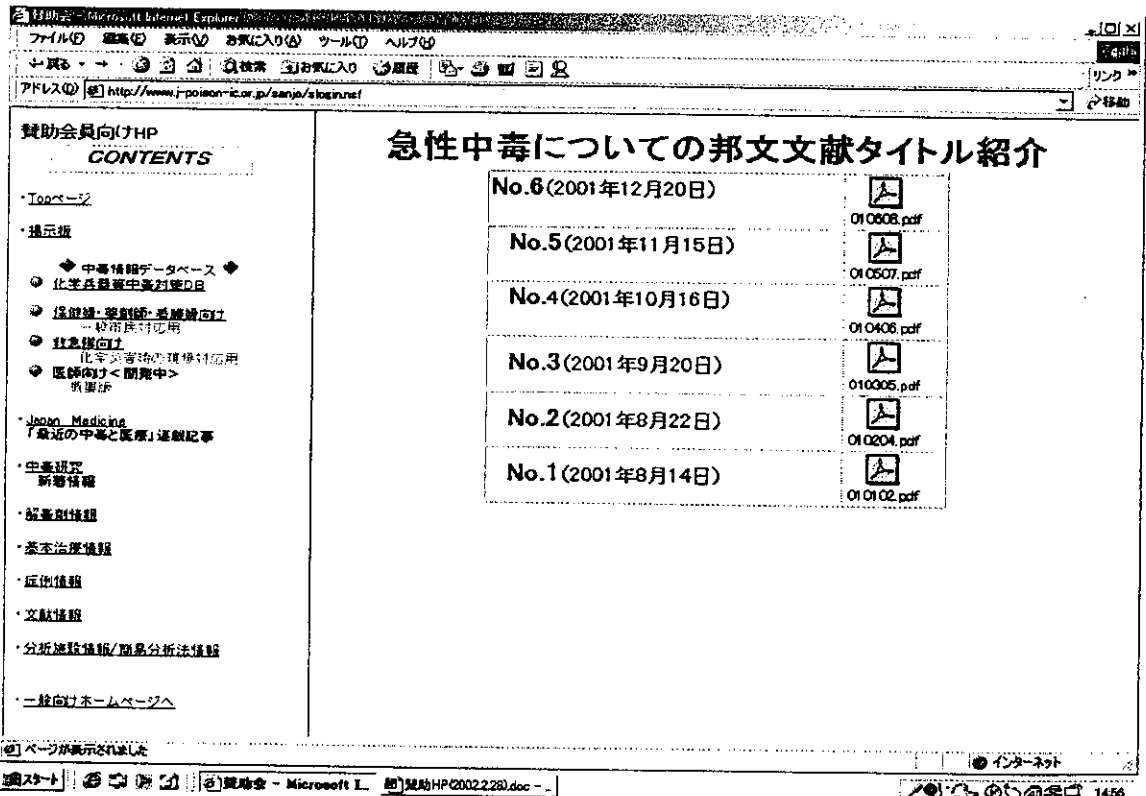


図2 賛助会員向け (医療従事者向け) ホームページ - 5



分析施設情報

民間分析委託機関

株式会社 エスアールエル(SRL)  
大塚製薬株式会社/大塚アッセイ研究所  
株式会社 シニアール・シー(CRO)  
株式会社 ビー・エム・エル(BML)  
株式会社 三菱化学ビーシーエル(MBC)

分析関連情報(リンク)

最新情報

中毒情報データベース

表示版

中毒情報データベース

止学点検薬中毒対策DB

保健婦・薬剤師・看護士向け一般市民向け

注意喚起

医師向け<開発中>

最新の中毒と医療」連載記事

中毒研究

最新情報

解毒剤情報

薬本治療情報

症例情報

文献情報

分析施設情報/簡易分析法情報

一応向けホームページ

民間分析受託機関 (一例)

株式会社 三菱化学ビーシーエル(MBC)

本社 〒174-8533 東京都板橋区洗足3-30-1  
同社先インフォメーションセンター 03(5994)2111または最新の営業所  
ホームページ http://www.mbc.co.jp/

検査項目	対象成分	分析内容	所要日数	必要試料量	容器	保存方法
医薬品スクリーニング	有機リン系04種、そのうち定量12種、有機窒素系010種、ピレスロイド剤、トリアジン系、カーバメート系、アニリン系、フェノール系	定性	7-13日(緊急2-3日)	ヘパリン加血液5mL/尿5mL	ヘパリン容器/尿一般容器	凍結
毒物スクリーニング	覚醒剤、麻薬、大麻・マリファナ、興奮剤・向精神薬、その他(アゼタミノフェン等)	定性	7-14日	尿(20mL)	褐色ポリビン	凍結
至急医薬品スクリーニング	興奮剤・向精神薬、その他(アゼタミノフェン等)	定性	2-3日	尿(20mL)	褐色ポリビン	凍結
乱用薬物スクリーニング	覚醒剤、麻薬、大麻・マリファナ	定性	5-11日	尿(30mL)	尿一般容器	凍結
覚醒剤スクリーニング	覚醒剤 覚醒剤原料	定性	5-9日	尿(10mL)	尿一般容器	凍結
農薬	ジクワット	定量	5-11日(緊急1-2日)	血清(1mL)		凍結
	パラコート	定量	5-10日(緊急1-2日)	血清(1mL)尿(1mL)	汎用容器(分離剤入り)尿一般容器	凍結
アヘン系麻薬検査		定性	5-11日	尿(10mL)	尿一般容器	凍結
コカイン系麻薬検査		定性	5-11日	尿(10mL)	尿一般容器	凍結
大麻・マリファナ検査		定性	5-11日	尿(10mL)	尿一般容器	凍結
幻覚剤検査		定性	5-11日	尿(10mL)	尿一般容器	凍結
産業衛生関連検査	トルエン、キシレン、ステレン	定量	4-5日	尿(1mL)	尿一般容器	4度以下(凍結可)
	NN-ジメチルホルムアミド、フルマルヘキサン、1,1,1-トリクロルエタン、トリクロルエチレン、テトラクロルエチレン	定量	4-6日	尿(2mL)	尿一般容器	4度以下(凍結可)
電解質・微量金属	亜鉛、セレン、マンガン、ニッケル、鉛、クロム、カドミウム、水銀	定量	1-20日	尿、血液、血清		冷蔵一部凍結
	フッ素イオン	定量	5-17日	血清(5mL)尿(5mL)	金属分析用容器	4度以下(凍結可)
	エタノール	定量	5-9日(7-9日)	ヘパリン加血液(1mL)尿(2mL)	ヘパリン容器/凍結スビッツ管	凍結

図2 賛助会員向け(医療従事者向け)ホームページ - 6

会員番号

ご所属名：

ご氏名：

## 賛助会員向けホームページのご利用アンケート調査

I. 賛助会員向けホームページが公開された2001年8月1日～2002年1月現在まで、どのくらいご利用されましたか（延べ数）。該当する数字に○印をお願いします。

1. 利用していない 2. 1～5回 3. 6～10回 4. 11～20回 5. 21回以上

\* 「1.利用していない」と回答された方のみ、その理由を選択し記入をお願いします。

a. インターネットを利用していないため（今後の利用予定について 有・無）

b. 利用したかったがアクセスできなかった

（使用コンピュータ機種、OS、ブラウザとバージョン等をご記入ください。）

c. その他（

Iで「1.利用していない」と回答された方でホームページへアクセスが可能な場合は、今回は非アクセスして頂き、以下の設問にご回答くださいますようお願いいたします。

II. 掲載内容について、a～i各項目の評価をお願いいたします。評価段階は下記の数字の通りといたしますので、括弧内の該当する数字に○印をお願いします。

1. 非常に有用である 2. 有用である 3. 普通 4. あまり必要ではない 5. 不要

- |                                 |               |
|---------------------------------|---------------|
| a. 掲示板                          | ( 1 2 3 4 5 ) |
| b. 中毒情報データベース（化学兵器等中毒対策データベース）  | ( 1 2 3 4 5 ) |
| c. 中毒情報データベース（保健婦・薬剤師・看護婦向け）    | ( 1 2 3 4 5 ) |
| d. 中毒情報データベース（救急隊向け）            | ( 1 2 3 4 5 ) |
| e. Japan Medicine「最近の中毒と医療」掲載記事 | ( 1 2 3 4 5 ) |
| f. 中毒研究「中毒情報センターから」             | ( 1 2 3 4 5 ) |
| g. 解毒剤情報                        | ( 1 2 3 4 5 ) |
| h. 文献検索情報（邦文文献タイトル）             | ( 1 2 3 4 5 ) |
| i. 分析施設情報・簡易分析法情報               | ( 1 2 3 4 5 ) |

III. 掲載項目について、今後開発を希望するものに○印をお願いします（複数選択可）。

1. 中毒情報データベース（医師向け） 2. 基本治療情報 3. 症例情報 4. 文献検索  
5. 簡易分析法情報 6. 診断補助データベース（症状から検索） 7. 化学災害情報

その他に開発を希望する項目をご記入ください。

IV. 掲載項目の改良点、新規開発項目の具体的な内容がございましたらご記入ください。

[ ]

V. その他の要望（利用法、システム、その他）についてご自由にご記入ください。

[ ]

ご協力頂きましてありがとうございました。

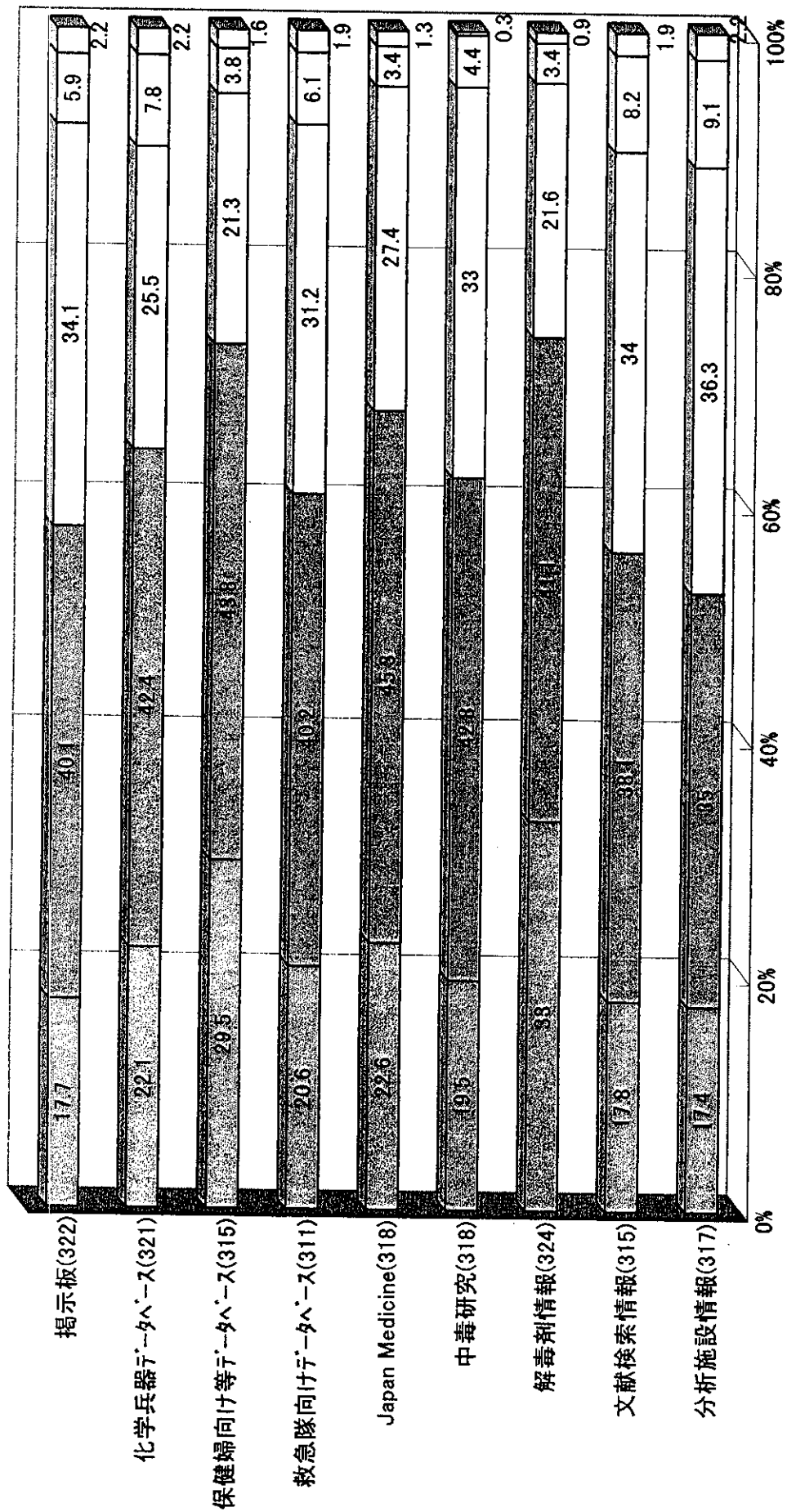
(財) 日本中毒情報センター

表2 賛助会員向けホームページ利用状況

	回答数(率)
<b>利用した</b>	<b>160 (100.0%)</b>
1～5回	129 (80.6%)
6～10回	18 (11.2%)
11～20回	6 (3.8%)
21回～	6 (3.8%)
不明	1 (0.6%)
<b>利用していない</b>	<b>421 (100.0%)</b>
インターネットを利用していない	224 (53.2%)
必要なかった(電話で充分等)	69 (16.4%)
知らなかった(連絡不備等)	41 (9.7%)
忘れていた	16 (3.8%)
アクセスできなかった	10 (2.4%)
その他	36 (8.6%)
不明	25 (5.9%)

表3 開発要望がある掲載項目

掲載項目	要望件数
医師向けデータベース	239
基本治療情報	235
症例情報	182
診断補助データベース	145
文献検索情報	70
化学災害情報	67
簡易分析法情報	50
その他	8
<b>合計</b>	<b>996</b>



非常に有用である  
 有用である  
 普通  
 あまり必要ではない  
 不要  
 ( )内は母数の件数

図3 賛助会員向け(医療従事者向け)ホームページ掲載項目の有用性評価